事業活動

医薬品事業
研究開発

注力4領域である泌尿器科、血液内科、難病・希少疾患、婦人科を中心として、治療ニーズが満たされていない疾患領域をターゲットに、高品質で特長のある製品を患者さんに提供します。

そのために、これまでに培ってきた研究開発力をさらに向上させ、低分子医薬品の「ウプトラビ」、核酸医薬品の「ビルテプソ」を生み出した創薬基盤に、新たなモダリティ・技術を加え、創薬の幅を広げることで、新たな価値を創造していきます。また、導入、PLCMを推進し、開発パイプラインを充実させ、新製品を継続して国内市場に投入するとともに、海外展開を目指します。

常務取締役 研究開発担当 **松浦 明**







成長戦略

自社創薬、導入、プロダクト・ライフサイクル・マネジメント(PLCM)の強化および生産性の向上によるパイプラインの拡充

2019年度の概況

治療ニーズが満たされていない疾患領域で2製品を発売

2019年6月に承認を取得した肝類洞閉塞症候群治療剤「デファイテリオ」(開発記号：NS-73、一般名：デフィブロチドナトリウム)は、2019年9月に国内で販売を開始しました。本剤は、2019年5月に希少疾病用医薬品指定を受けています。国内において本疾患の適応を持つ初の薬剤であり、本疾患の治療に貢献できるよう取り組んでいます。

2020年3月に国内で承認されたデュシェンヌ型筋ジストロフィー（DMD）治療剤「ビルテプソ」(開発記号：NS-065/NCNP-01、一般名：ビルトラルセン)を、2020年5月に発売しました。本剤は、2015年10月に先駆け審査指定制度の対象品目、2019年8月には希少疾病用医薬品に指定されており、DMD患者さんの治療に貢献できるものと期待しています。米国では2020年2月に申請が受理され、8月に販売承認を取得し、販売を開始しています。また、現在国際共同治験にて第Ⅲ相試験を実施中です。

2016年に発売した肺動脈性肺高血圧症治療剤「ウプトラビ」(開発記号：NS-304、一般名：セレキシパグ)については、効能追加として、慢性血栓塞栓性肺高血圧症を対象とした第Ⅲ相試験を、ヤンセンファーマ株式会社と共同で実施中です。この効能および効果については、厚生労働省より希少疾病用医薬品の指定を受けています。また、閉塞性動脈硬化症を対象とした後期第Ⅱ相試験および腰部脊柱管狭窄を対象とした前期第Ⅱ相試験は、日本新薬が単独で実施中です。

中長期展望

幅広い研究開発活動で新たな価値のある製品を創出し、パイプラインを拡充

これまで培ってきた低分子医薬品・核酸医薬品の創薬力に、AIやiPS細胞など新たな技術を加え、また遺伝子治療など新たなモダリティに取り組むことで創薬の幅を広げます。また、オープンイノベーション活動を推進し、社内外の資源を最大限活用していきます。

これらの研究開発活動を通じて、新たな価値のある製品を創造し、治療ニーズが満たされていない疾患領域において、継続的に特長ある新薬を提供していきます。また、研究開発をグローバルで実施できる組織体制を構築し、特長のある製品を世界中に届けていきます。

パイプライン

2020年8月20日現在

国内

開発記号(一般名)	開発段階	領域分類	適応	オリジン	開発	フェーズ Ⅰ Ⅱ Ⅲ / 申請中 / 発売
NS-065／NCNP-01 (ビルトラルセン)	発売 PⅢ	難病・希少疾患	デュシェンヌ型筋ジストロフィー	共同：国立精神・神経医療研究センター	自社	
NS-304 (セレキシパグ)	PⅢ	難病・希少疾患	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	自社	共同：ヤンセンファーマ株式会社	
NS-32 (デルイソマルトース第二鉄)	PⅢ	婦人科疾患	鉄欠乏性貧血	導入：ファーマコスモス社	自社	
ZX008	PⅢ	難病・希少疾患	ドラベ症候群、レノックス・ガストー症候群	導入：ゾゲニクス社	ゾゲニクス社	
NS-304 (セレキシパグ)	PⅡ	循環代謝系	閉塞性動脈硬化症	自社	自社	
	PⅡ	整形外科	腰部脊柱管狭窄	自社	自社	
NS-580	PⅡ	婦人科疾患	子宮内膜症	自社	自社	
NS-17 (アザシチジン)	PⅡ	血液がん	急性骨髄性白血病	導入：セルジーン社	自社	
NS-87	PⅠ/Ⅱ	血液がん	二次性急性骨髄性白血病	導入：ジャズ・ファーマシューティカルズ社	自社	
NS-917	開発準備中	血液がん	再発・難治性急性骨髄性白血病	導入：デルタフライファーマ株式会社	自社	

海外

開発記号(一般名)	開発段階	領域分類	適応	オリジン	開発	フェーズ Ⅰ Ⅱ Ⅲ / 申請中 / 発売
NS-065／NCNP-01 (ビルトラルセン)	発売 PⅢ	難病・希少疾患	デュシェンヌ型筋ジストロフィー	共同：国立精神・神経医療研究センター	自社	
NS-304 (セレキシパグ)	PⅢ	難病・希少疾患	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	自社	導出：ジョンソン・エンド・ジョンソン社	
NS-018 (ilginatinib)	PⅠ/Ⅱ	血液がん	骨髄線維症	自社	自社	

Our Will

治療困難な疾患に、特長ある研究開発で挑む

開発テーマのプロジェクトマネージャーとして、開発および販売を成功に導くための戦略立案やタイムマネジメントを行っています。最近は、ビルトラルセンに続く核酸医薬品を担当し、世界中の治療ニーズが満たされない患者さんに製品を届けるべく、グローバルプロジェクトの運営に取り組んでいます。これまで治療が困難であった疾患も、核酸医薬品では治療できる可能性があります。治療を待つ患者さんのために、製品を確実に届けることはもちろんのこと、「いち早く」ということも意識して、仕事に取り組んでいます。今後も、新たなモダリティを視野に入れて開発テーマを推進することで、患者さんに価値ある製品を届けることに貢献していきます。



研開企画部 企画推進二課
蛭田 仁

医薬品事業

営業

営業部門の使命は、患者さんの治療に適切な薬剤を、1日でも早くお届けするため、医療関係者に質の高い情報提供活動を行うことです。

患者さんの治療のパートナーとして、医療関係者から信頼されるため、私たちはIntegrity※な活動を基本方針として、医療関係者のニーズを適切に把握し、迅速な情報提供に努めています。

常務取締役 営業担当　**佐野 省三**



※ Integrity：誠実、真摯、高潔などの概念





成長戦略

地域医療が変化している中、エリアごとに多様化する医療ニーズに応えるために、エリアにおける情報提供体制を整備。本社だけでなく、各エリアにも領域別学術部員を配置することで、MRによる情報提供に加え、さらに迅速で高度な情報提供活動を推進。

2019年度の概況

注力領域の新製品群が早期に市場浸透し、業績を牽引

「泌尿器領域」「血液領域」「スペシャリティ領域」の3領域を最注力領域として、情報提供活動を実施しています。

泌尿器領域では、2019年5月に国内新発売の前立腺癌治療剤「アーリーダ」、2020年3月に「ザイティガ」をヤンセンファーマ株式会社とコ・プロモーションを行い、前立腺肥大症に伴う排尿障害改善剤「ザルティア」とともに、患者さんの治療に貢献しています。

血液領域では、骨髄異形成症候群治療剤「ビダーザ」、CD20陽性の濾胞性リンパ腫治療剤「ガザイバ」に加え、2019年8月に肝類洞閉塞症候群に対して国内で唯一の適応を持つ「デファイテリオ」を新発売しました。肝類洞閉塞症候群は重症の場合、多臓器不全を伴って高率に死亡する重篤な疾患です。国内において本疾患の適応症を有する治療薬がなかったこともあり、本剤による治療が迅速に開始されています。

スペシャリティ領域では、肺動脈性肺高血圧症治療剤として「アドシルカ」「オプスミット」「ウプトラビ」3つの異なる作用機序の経口剤を世界で唯一取りそろえるリーディングカンパニーとして、治療に貢献しています。また、先駆け審査指定制度および条件付き早期承認制度の適用を受けた国内初の核酸医薬品となるデュシェンヌ型筋ジストロフィー治療剤「ビルテプソ」は2020年5月に国内での販売を開始しました。本疾患は、これまで治療薬がなかったため、早期に患者さんにお届けできるよう情報提供活動を進めていきます。

TOPICS

地域医療、各種ニーズに対応できる体制の構築

営業体制と情報提供活動

昨今、「地域医療構想」「地域包括ケアシステム」の推進により、地域ごとに多様化する医療ニーズに対応した情報提供活動が求められています。

こうした中、営業事業所を13支店・43営業所とし、その下に医療圏なども視野に入れながら113チームを配置して、迅速な情報提供が可能な体制を構築しています。まずMR個人が担当エリアにおける情報提供活動のプランを描き、これをもとにチーム、営業所、支店それぞれの組織体における情報提供活動プランを立案しています。説明会、講演会、セミナーなども活用しながら、適正使用情報の提供活動を行っています。

エリアにおける学術支援体制の整備

当社は生命に関わるスペシャリティ製品も多いことから、MRは常に最新知識を習得する高い意識で継続研修を受講しており、その習得状況を社内認定試験にて確認した上で、情報提供活動を行っています。また、医療関係者のさまざまなニーズを確実に把握するための対話技術を習得する研修やロールプレイング研修なども実施し、情報提供の質は高まっています。

また、MRによる情報提供体制に加え、より高度で専門的な医薬品情報を提供するため、2019年度より領域別学術部員を各エリアに配置しました。これにより、MRと学術部員が連携して医療関係者のニーズに迅速に対応できるようになり、2019年の外部調査でも当社の情報提供の質は高い評価を受けています。

2020年5月に国内での販売を開始した国産初の核酸医薬品となるデュシェンヌ型筋ジストロフィー治療剤「ビルテプソ」は、専門性が高く、高度な医療ニーズに応える必要があるため、早期から特別な教育を受講した専門MRを各エリアに配置しました。

このように、当社は医療関係者へ質の高い情報提供活動ができるよう、教育体制や営業体制の構築に努めています。

中長期展望

MRとデジタルチャネルを融合させた「オムニチャネル型情報提供」への移行

当社では医療関係者からの情報収集・提供はMRが中心となって活動していましたが、近年はデジタルチャネルを活用した情報提供も多くなってきました。そのような中で今般の新型コロナウイルス感染症拡大により、医療関係者との対面によるMR活動は大きく制限されることになり、デジタルチャネルを用いた情報伝達に急激にシフトしなければならない状況となりました。製薬各社の動向に伴い、医療関係者もデジタルチャネルによる情報入手の割合が高まったことから、今後、MRとデジタルチャネルを融合させた「オムニチャネル型の情報提供」への移行が進んでいくと想定されます。

当社では、すでにe-ディテール、Webサイトによるセミナーや面談、リモートディテールなどの各種デジタルチャネルを活用した情報提供を実施しています。一方、医療関係者の真のニーズを聞き取り、適切にお応えするには、やはりMRによる情報入手は最も重要です。MRとデジタルチャネルをそれぞれの役割に応じて活用する「オムニチャネル型情報提供」への移行を進めていくことで、「患者さんの治療に適切な薬剤を、1日でも早くお届けする」という営業部門の使命を果たせるよう、今後も適正使用情報の提供に尽力していきます。



Our Will

知恵と情熱を集結し、仲間とともに道をつくる

医薬品を取り巻く市場環境の変化は著しく、MRにとっても正解が見えない厳しい時代が到来しています。しかし、価値ある医薬品を、一人でも多くの患者さんに少しでも早く届けたいという一心で、この環境変化に立ち向かい、乗り越える挑戦を続けなければならないと考えています。

正解が見えない状況であっても、日本新薬には知恵を出し合い、情熱を持って変化に挑んでいく仲間が全国各地にいます。部署の垣根やこれまでの常識にしばられることなく、新しいチャレンジを本気で語り合う仲間から多くの刺激を受け、「患者さんの治療に貢献する」というあるべき姿に向けた道を仲間とともにつくっていきます。



京滋北陸支店 京都営業所
馬田 一輝

医薬品事業

生産

第六次5ヵ年中期経営計画の達成に向けて4つの目標※1を定めています。これら目標を達成するために20の具体的施策を策定し、すべての施策においてロードマップに定めた2019年度の目標をほぼ達成しました。特に「ビルテプソ」の米国での自社販売に向けたグローバルサプライチェーン構築においては、サプライチェーン・信頼性保証統括部が一丸となって準備を行いました。

信頼性の高い医薬品を患者さんにお届けするという命題のもと、引き続き本計画に定められたあるべき姿に向けて邁進していきます。

取締役 サプライチェーン・信頼性保証担当　**齋藤 均**

※1 1. さらなる安定供給体制の構築、2. 信頼性保証体制の強化、3. 継続したコストマネジメントを推進し、利益を創出する、4. 調達、製造、物流、信頼性保証、安定供給体制のグローバル対応推進



成長戦略

グローバル供給体制・信頼性保証体制の確立

2019年度の概況

「ビルテプソ」のグローバル供給体制・信頼性保証体制を構築するとともに、生産性向上を推進

2019年度は、「ビルテプソ」の米国での発売に向けたグローバル供給体制・信頼性保証体制の構築を推進し、2020年度の発売開始に向け準備を進めてきました。具体的には、関連製造所におけるFDA査察対応、米国での販売網構築、薬事体制の整備、安全性データベースやその運用手順などを構築しました。さらには、将来の自社工場活用を見据えた小田原総合製剤工場におけるグローバル運用とのギャップを分析するとともに、対応チームも結成しました。

また、前中期経営計画で築いた安定供給体制、業務の効率化とコストマネジメントを一層推進し、サプライチェーン全体の生産性向上に取り組みました。具体的には、品質マネジメントシステムの推進により、原薬・製品に対する品質、有効性および安全性の確保に努めました。さらに、注力品目の原料調達や物流のコストを削減し、ローコストマネジメントを推進し、製品の供給が途切れることのないように、在庫目標の維持や調達先の管理によるリスク低減、有事の際のマニュアルを見直すなど、BCP(Business Continuity Plan／事業継続計画)を積極的に推進しました。

中長期展望

グローバル供給体制の確立、核酸医薬品関連の新規投資案件の検討などに注力

国内医薬品市場の環境が厳しさを増す中、米国・欧州・中国・その他新興国といった海外市場の重要性が増しています。これらの市場へ積極的に展開するために、グローバル供給体制の確立とともに、GDP(医薬品の適正流通基準)に対応できる物流部門の体制構築、海外査察や規制に対応できる信頼性保証体制の確立を推進しています。

また、市場のスペシャリティ領域へのシフトや医薬品モダリティの多様化に対応するため、小田原総合製剤工場を積極的に活用していきます。具体的には、セレキシパグのプロダクト・ライフサイクル・マネジメント(PLCM)における高生理活性固形製剤棟の活用、核酸医薬品関連の新規投資案件の検討を推進しています。



併せて、調達・物流コストの低減など継続したコストマネジメントを推進し、利益創出に貢献していきます。

品質保証と安定供給

研究開発段階から製造販売後までの信頼性の確保

日本新薬では、信頼性保証統括部門を中心に、医薬品に不可欠な品質、有効性および安全性の確保に努めています。

研究開発段階では、まず非臨床試験や臨床試験を実施し、その結果をもとに、製造販売承認を得るための申請資料を作成します。次に、申請資料を信頼性保証統括部門が適切な段階で監査し、非臨床試験や臨床試験でのデータの信頼性を保証しています。

製造販売承認の取得後は、製造販売業三役(総括製造販売責任者、品質保証責任者、安全管理責任者)の強固な連携により、承認事項を遵守するとともに、医薬品製造販売業許可や医薬品製造業許可の維持・管理に努め、製造販売している医薬品の品質保証と安全性の確保に取り組み、市場への責任を果たしています。

医薬品の信頼性保証

研究開発段階	
非臨床試験	臨床試験
GLP、信頼性基準に基づく試験データの信頼性保証	GCPに基づく臨床試験の信頼性保証

↓

製造販売後		
品質管理	安全管理	承認・許可の維持・管理
GMP、GQPに基づく品質管理	GVPに基づく安全管理	製造販売承認・製造販売業許可などの維持・管理

医薬品のリスク管理への取り組み

日本新薬では、医薬品リスク管理計画(RMP)※2に沿ったリスク管理を進めています。RMPは、開発段階から製造販売後までのすべての期間においてベネフィットとリスクを評価し、その結果に基づいて必要な安全対策を実施することにより、医薬品の製造販売後の安全性を確保することを目的としています。RMPは医薬品医療機器総合機構(PMDA)と日本新薬のWebサイトで公開しています。

安全管理部門では、RMPの実践に向けて、担当者の対応能力向上を目的としたマニュアルの整備や、グループ制によるボーダーレスな業務担当体制を構築しています。

さらに、ビルテプソの米国展開に伴い、安全性情報のグローバル一元管理を推進しています。

※2 Risk Management Plan：製造販売後の個々の医薬品の重要なリスクを定義し、そのリスクを低減するために企業が行っている取り組みを一つの文書にまとめたもの

医薬品品質システムの構築

品質保証部門では、GQP、GMPの遵守と合わせて医薬品品質システムを構築し、マネジメントレビューを通して、品質システム、製品品質および資源配分の継続的改善に取り組んでいます。また、今後の米国展開に伴い、米国向けの品質システム整備、英語コミュニケーション能力や、海外の品質保証に関する知識・経験を有する人材の確保・育成を進め、グローバル基準の医薬品品質システムの確立を目指しています。

安定的な製品の供給

小田原総合製剤工場では、2014年度から独自の資格認定制度を導入し、従業員の多能工化を進めています。また、「コストと品質で競争力のある工場」を目指すというビジョンを掲げ、マネジメント手法であるBSC※3を導入しています。これにより、財務、顧客、業務プロセス、人材と変革など多角的な視点から戦略を立案し、ビジョンおよび戦略実現のため、KPI※4を設定することで、進行状況を管理しています。物流面では、保管時および輸送時の適切な温度管理を行うとともに、在庫保管場所を分散させることで品質だけでなく災害時のリスクにも配慮した供給体制を整えています。

※3 Balanced Score Card：企業の戦略がいかに実行されたかを総合的に測定する手法

※4 Key Performance Indicators：重要業績評価指標。BSCで企業目標を実現するために設定した具体的な業務プロセスモニタリング指標のうち、特に重要なものを指す

Our Will

グローバルサプライチェーンで持続的な成長を

ビルテプソサプライチェーン構築プロジェクトリーダーとして、原料調達から国内外への製品供給に至るグローバルサプライチェーン構築を担当しています。特に米国でのサプライチェーン構築は、日本新薬にとって初めての経験であり試行錯誤の連続ですが、全社一体となり創りあげた新薬を一日でも早く患者さんへお届けできるようスピード感を重視して取り組んできました。米国グループ会社のNS Pharmaをはじめ、多くの部門が関わる業務であることから、部門間の連携や対話を大切にし、一連のフローを円滑にすることが私の役割です。米国の法規制に対応したサプライチェーン構築は大きなチャレンジでしたが、「どうすれば達成できるのか?」をみんなで考えながら一つひとつ課題をクリアしてきました。今回構築したグローバルサプライチェーンを今後の事業展開に生かすことで、持続的な成長につなげたいと考えています。



生産企画部 生産企画課
案浦 明子

機能食品事業

機能食品事業は、私たちの毎日の食生活を支えるだけでなく、フードロスといった社会的な課題へのチャレンジや健康食品素材・サプリメントを通じて健康増進に寄与するなど、医薬品とは違ったアプローチで「人々の健康と豊かな生活創りに貢献する」ことが実現可能です。私たちは研究開発力の強化により、独自性の高い新製品を継続的に上市することで存在意義を示し人々の健康寿命に貢献します。

取締役 機能食品担当　**小林 健郎**



成長戦略

サプリメント事業の収益拡大を図るとともに、安全・安心な「食」を通して人々の健康長寿、アクティブライフに貢献する

2019年度の概況

すべての注力分野において独自性のある高付加価値製品の上市を実現し、増収増益を達成

人生100年時代を迎え、長く生きるだけでなく、いかに自分らしく豊かな生活を送るかが求められる時代となっています。わが国でも少子高齢化の進行により社会医療費は増大し続けており、行政は疾病の早期診断・早期治療、セルフメディケーション、さらにはセルフケアを推進することで医療費の低減を図っています。こうした背景のもと、国民の健康志向は高まり、エビデンスのあるサプリメントや健康志向食品の果たすべき役割が増大しています。

機能食品事業の成長ドライバーとなるサプリメント事業においては、スポーツサプリメントおよびエイジングケアサプリメントの2分野に注力し、アスリートに最も支持されるサプリメント、製薬企業のサプリメントとして、疾病予防・エイジングケア分野のパイオニアを目指して活動しました。

一方、収益の基盤となるバルク事業においては、健康食品素材、品質安定保存剤、プロテイン製剤を注力分野として研究開発に経営資源を投入し、それぞれの注力分野において、幾つもの特長ある新製品を計画的に発売しました。

これらの取り組みにより、健康食品素材、品質安定保存剤、プロテイン製剤のすべての分野において、増収増益となりました。

TOPICS

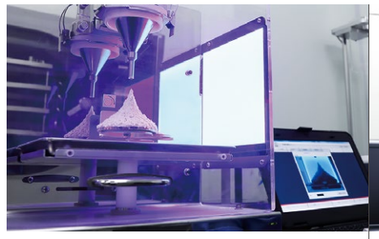
マンゴスティアで日本初の機能性表示食品

マンゴスチンはオトギリソウ科の常緑高木で果肉の甘みと酸味が調和した優美な風味から、「果物の女王」と呼ばれています。このマンゴスチンの果皮に強力な抗糖化作用を有する機能性成分「ロダンテノンB」が含まれることを当社が世界で初めて発見しました。

近年、メディアでも取り上げられることが増えている「糖化」は、体内で余った糖がタンパク質と結合することで起こります。この糖化により、タンパク質が本来持っている機能を発揮できなくなり、生体にさまざまな悪影響を及ぼすことが分かってきました。こうした中、マンゴスチンエキス摂取群において、プラセボ群と比べて肌の水分量が改善することが認められ、当社は糖化ストレスの軽減により肌の潤いを保持する機能があることを明らかにしました。これにより、国内で初めて、糖化ストレスを軽減することをメカニズムとした機能性表示食品を取得し、「マンゴスティア」を発売しました。

当製品は、関係者に大きなインパクトを与え、機能性表示食品として受理後、多くのユーザーから問い合わせをいただいています。







記憶力を維持するサプリメント「記憶の小箱」

「記憶の小箱」はバコパサポニン※を機能性関与成分とした初めての機能性表示食品です。1日3粒摂取することで、認知機能の一部である記憶力（加齢により低下する日常生活で見聞きした情報を覚え、思い出す力）を維持する機能があることが報告されています。

WHOは、世界では3秒に1人が認知症を発症していると報告しています。これは、高齢化が進む日本においても深刻な問題であり、国内の認知症患者数は2025年には700万人を超えると予想されています。こうした認知症には現在有効な治療法が確立されておらず、脳の病変は10～20年前から進行しているとされていることから、エビデンスのあるサプリメントを早い段階から摂取し、発症を予防することも対策の一つとなります。

今後もエイジングケア領域でさまざまな製品開発に取り組んでいきます。

※ バコパサポニンは、インドの伝統的医学アーユルヴェーダの脳機能改善ハーブとして有名なバコパに含まれています。神経伝達を助けることで覚える力の向上と思い出す力が改善する機能が報告されています。



中長期展望

サプリメント事業の収益拡大を図るとともに、社会課題の解決にも貢献

私たちの使命は、「食」を通じて人々の「疾病の予防」そして「健康寿命の延伸」に貢献することであると考えています。機能食品事業の収益の基盤であるバルク事業は、その対象となる加工食品市場が人口減少により市場縮小、素材のコモディティ化による価格競争が課題となっています。そのため、私たちは製薬企業の研究開発力を生かし、市場ニーズを満たす高付加価値の製品を上市することで新たなマーケットを創造し、高収益体制への変換を推進してきました。加えて、これらの研究開発力を基盤にして、私たちの想いを消費者に直接伝えられる最終製品の開発・提供を成長ドライバーと位置付け、さらに収益性の高い事業体に転換していきます。

また、品質安定保存剤への取り組みは、SDGsの活動の一環として食品ロスの削減につながります。食品のおいしさを維持しながら、賞味期限を延ばす独自技術を開発することで、廃棄される食品の削減に今後も貢献することができます。

このように、機能食品事業は収益拡大はもとより、社会課題の解決にも貢献していく方針です。

Our Will

独自性を追求した健康食品素材の開発

私は、日本新薬オリジナルのアンチエイジングを訴求する新たな健康食品素材の探索を行っています。特に、機能食品事業の重点領域である抗糖化分野に着目した抗糖化素材を、大学との共同研究を通じて社内保有の植物エキスライブラリから探索しています。

素材探索の業務はチームで進めていますので、チームが活性化するよう心掛けています。例えば、チームメンバー同士のコミュニケーションの機会を増やすことで、各メンバーが自身の業務の目的などを理解し、自分の考えをもって業務が行えるよう意識して仕事を進めています。これにより、新たな気付きがあり仕事の効率も向上すると考えています。また、素材開発において独自性を見いだすために、大学などとも連携し幅広い人脈から積極的に情報収集を行うように努めています。



食品開発研究所
フードマテリアル開発一課
林 謙次郎